



文部科学省・外務省後援

第 11 回 PDA 高校生パーラメンタリーディベート

世界交流大会 2026 報告書

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：

2026 年 1 月 22 日 (木)、23 日 (金)

会場：

オンライン (Zoom)

主催：	一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)
共催：	大阪公立大学
後援：	文部科学省、外務省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、 一般社団法人日本英語交流連盟
協賛：	公益財団法人 Tazaki 財団
助成：	公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団、 一般財団法人 三菱みらい育成財団

参加校とディベートチーム：14 か国 26 チーム (日本 5 チーム、海外 21 チーム)

日本	聖光学院高等学校
日本	福井県立藤島高等学校
日本	徳島県立城ノ内中等教育学校
日本	山形県立東桜学館高等学校
日本	千葉県立船橋高等学校
コロンビア	American School 2 チーム
フィリピン	Timber City Academy 2 チーム
ジャマイカ	Hampton School ※1
インド	India International School in Japan (IISJ) ※1
インドネシア	Francis School BSD 2 チーム

ルーマニア	George Emil Palade Highschool of University of Medicine, Pharmacy and Science, Targu Mures
ルーマニア	Colegiul Național „Al Papiu Ilarian"
モンゴル	Hobby School of Ulaanbaatar
モロッコ	Morocco Debate Association
ネパール	India International School in Japan (IISJ) ※1
ポーランド	Poland Debate Academy ※2
ポーランド	Zespół Szkół Łączności (Schools of Communications) in Cracow 2 チーム
タイ	Prince of Songkla University Demonstration School (Secondary) 2 チーム
ウガンダ	Wampeewo Ntakke Secondary School ※2
ウガンダ	Code High School ※2
インド/フィリピン/シンガポール	UWC ISAK Japan

※1＝欠席チーム

※2＝大会 1 日目のみ参加

大会趣旨

昨今、グローバル化の加速により、多様な文化や考え方を理解し、グローバル社会で貢献できる人財の育成が求められています。本大会では、パラメンタリーディベートを通して、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、コミュニケーション力など複数の力を発揮し、様々な国の人と同じ土俵で議論し、成長する機会を提供します。キーノートスピーチなど最新の講演も織り交ぜ、グローバルに活躍できる人財育成とすることを目的とします。ディベートという手法を通して効果的な国際交流を図るプログラムであります。また、スケジュールも国際会議、国際学会に似たものとし、高校生にとって、将来的にこのような世界の舞台に参加するイメージや各々の目標を持ってもらえれば幸いです。なお、本大会では、文部科学省助成調査研究の結果を踏まえ、通常の授業でできる即興型英語ディベートのフォーマットを用います。そうすることにより、クラブの生徒に加え、一般の生徒も参加しやすい形態となっています。

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）

予選 1 : Tobacco should be banned.

たばこを禁止すべきである。

予選 2 : Ambulance services should be paid rather than free.

救急車の利用は無償よりも有料化すべきである。

予選 3 : It is better to have romantic relationships with humanoid robots than with humans.

人間よりも、人型ロボットと恋愛したほうがよい。

予選4：Organ donation should be mandatory.

臓器提供を義務化すべきである。。

準決勝：Tariffs do more benefits than harm.

関税は害よりも利益をもたらす。

決勝：Accepting immigrants brings more benefits than harms.

移民の受け入れは、害よりも利益をもたらす。

キーノートスピーカー：

Jordan Fisher 氏

Co-founder & Executive Chairman at Zehitomo,
Venture Partner at Antler Japan



参加校紹介写真



Seiko



Fujishima



Johnouchi



Touhgakkan



Funabashi



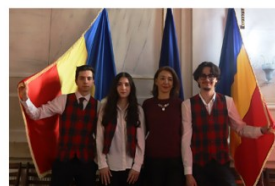
Colombia



Philippines



Romania

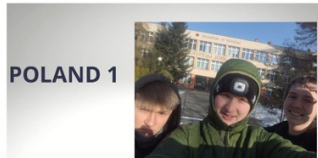




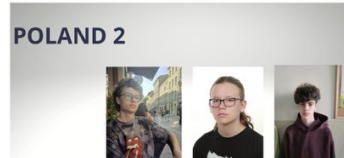
Mongolia



Morocco



Kuba Benedykt Janek



Kuba Bartek Borys

Poland



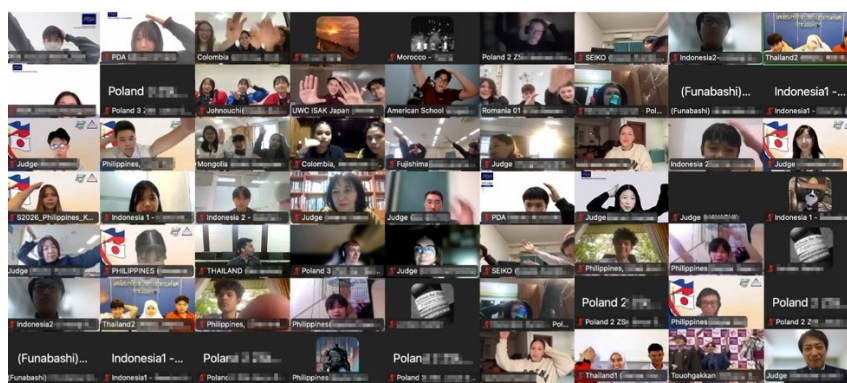
Thailand



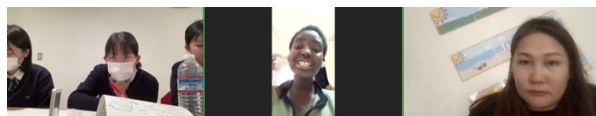
Uganda

1 日目（開会式、予選 3 ラウンド、文化交流、カルチャーナイト）

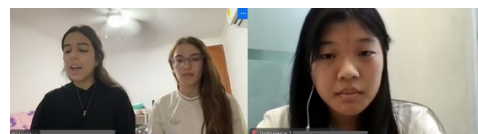
第 11 回 PDA 世界交流大会は、オンラインにて開催されました。開会式では、参加校の紹介動画を視聴し、一緒にディベートをする様々な国の仲間を確認しました。PDA 代表理事の中川智皓による挨拶、そして PDA スタッフによるディベートのルール説明がありました。ルールの確認では POI（Point of Information：ディベート中の質疑応答）のポーズを練習し、相互理解を深める方法について確認しました。大会 1 日目は予選が 3 ラウンド、カルチャーナイト（世界の国々の文化紹介）が行われました。それぞれのラウンドにおいて、ディベート終了後、ジャッジによる結果発表を待つ間には、各チームが互いの学校における論題に関わる状況について意見交換・交流を行いました。



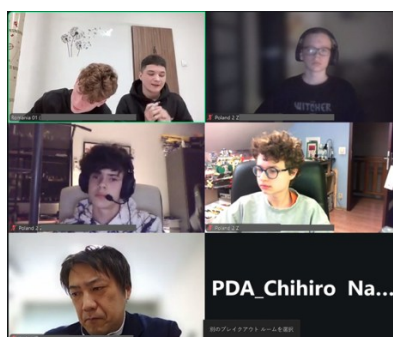
開会式・POI 練習



城ノ内 VS ウガンダ 2



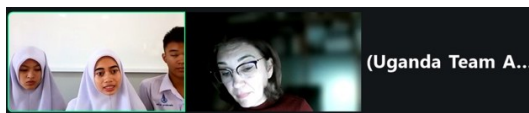
コロンビア 1 VS インドネシア 1



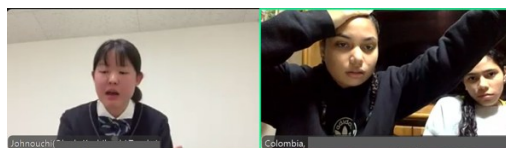
ルーマニア 1 VS ポーランド 2



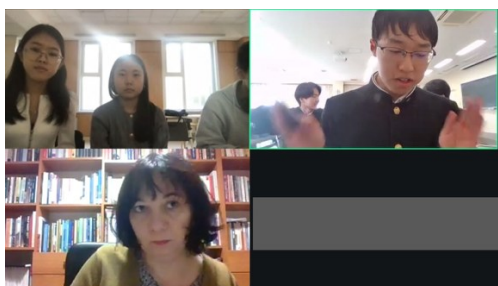
聖光 VS ISAK



タイ 1 VS ウガンダ 1



POI! (城ノ内 VS コロンビア 2)



モンゴル VS 藤島



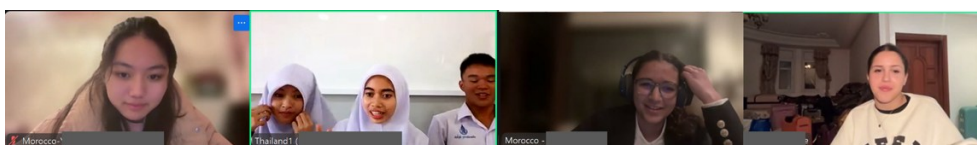
東桜学館 VS フィリピン 2



船橋 VS ルーマニア 1



インドネシア 1 VS タイ 2



ディベート後の交流 (モロッコ VS タイ 1)



ディベートの様子・POI! (山形県立東桜学館高等学校)



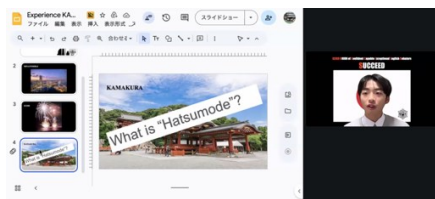
コロンビア American School



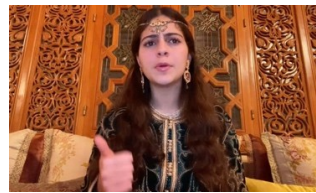
福井県立藤島高校



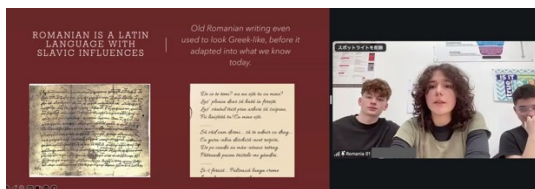
モンゴル Hobby School of Ulaanbaatar



聖光学院高等学校



モロッコ Morocco Debate Association



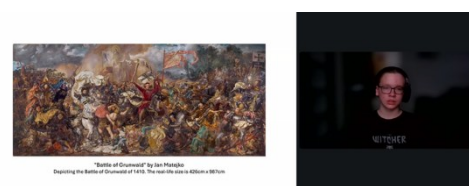
ルーマニア George Emil Palade Highschool of University of Medicine, Pharmacy and Science, Targu Mures



ルーマニア Colegiul Național „Al Papiu Ilarian”



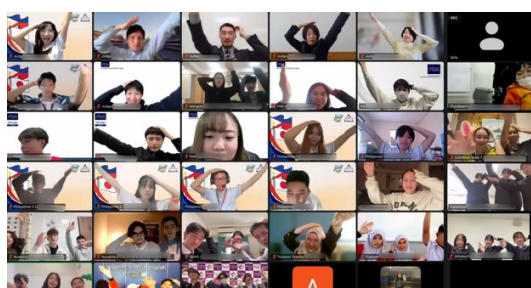
ポーランド Poland Debate Academy



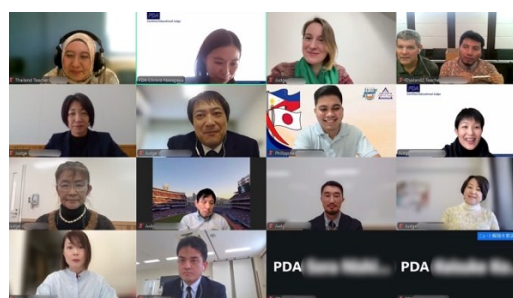
ポーランド Zespół Szkół Łączności (Schools of Communications) in Cracow

2 日目（予選、準決勝、決勝、キーノートスピーチ、閉会式）

大会 2 日目は予選ラウンド 4 から開始されました。準備時間には、教員およびジャッジ間の交流が行われ、各学校・各国における教育環境やディベート指導の実践について意見交換がなされました。ディベートでは、前日までの議論を踏まえ、より論点の深まりと戦略性の高い試合が展開されました。ディベート終了後の昼食時間には、前日に実施されたカルチャーナイトの続きとして文化交流企画が行われました。各国・各地域の参加者によるローカルなダンスの披露などがあり、参加者同士が互いの文化を楽しみながら理解を深める機会となりました。



大会 2 日目の PDI 練習



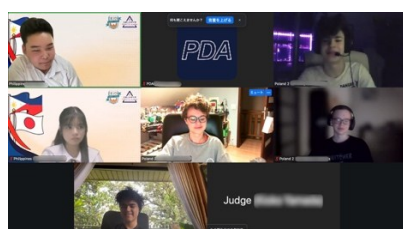
ウガンダ VS トリニダード・トバゴ



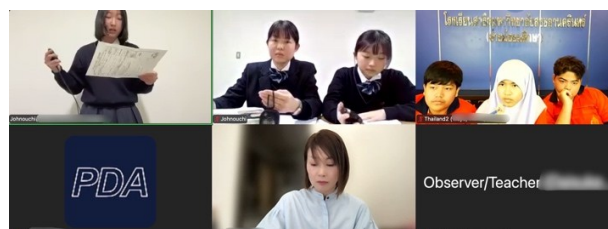
インドネシア 1 VS モロッコ



船橋 VS ISAK



フィリピン 2 VS ポーランド 2



城ノ内 VS タイ 2



徳島県立城ノ内中等教育学校



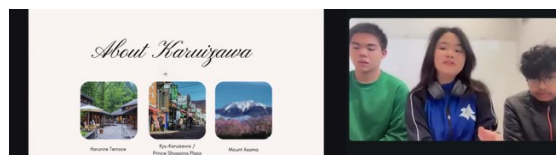
フィリピン Timber City Academy



インドネシア Francis School BSD



千葉県立船橋高等学校



インド／フィリピン／シンガポール UWC ISAK Japan



タイ Prince of Songkla University Demonstration School (Secondary)



山形県立東桜学館高等学校

休憩後、予選結果に基づくブレイクアナウンスメントが実施されました。以下がその結果です。

Place	Team Name	Win	Sum	Institution
1st	Romania 2	4	169	Colegiul Național „Al Papiu Ilarian”
2nd	Fujishima (Japan)	4	159	Fukui Prefectural Fujishima Senior High School
3rd	Mongolia	3	175	Hobby School of Ulaanbaatar
4th	Seiko (Japan)	3	168	Seiko Gakuin High School
5th	Philippines 1	3	167	Timber City Academy
6th	Romania 1	3	156	George Emil Palade Highschool of University of Medicine, Pharmacy and Science, Targu Mures
7th	Indonesia 2	3	153	Francis School BSD
8th	Johnouchi (Japan)	3	142	Tokushima Prefectural Johnouchi Secondary School
9th	Indonesia 1	3	140	Francis School BSD
10th	ISAK	2	154	UWC ISAK Japan
11th	Colombia 2	2	145	American School
12th	Colombia 1	2	141	American School
13th	Touhokakkan (Japan)	2	134	Yamagata Prefectural Touhokakkan Senior High School
14th	Poland 3	2	127	Zespół Szkół Łączności (Schools of Communications) in Cracow
15th	Poland 2	2	118	Zespół Szkół Łączności (Schools of Communications) in Cracow
16th	Philippines 2	1	159	Timber City Academy
17th	Thailand 1	1	147	Prince of Songkla University Demonsration School (Secondary)
18th	Morocco	1	143	Morocco Debate Association
19th	Poland 1	1	138	Poland Debate Academy
20th	Uganda 2	1	114	Code High School
21st	Funabashi (Japan)	0	163	Chiba Prefectural Funabashi Senior High School
22nd	Thailand 2	0	143	Prince of Songkla University Demonsration School (Secondary)
23rd	Uganda 1	0	125	Wampeewo Ntakke Secondary School
-	Jamaica	-	-	Hampton School
-	Nepal	-	-	IISJ
-	India	-	-	IISJ

準決勝および決勝では、POI（Point of Information）を交えた質疑応答を通じて白熱したディベートが展開されました。決勝戦の準備時間中には、Jordan Fisher 氏によるキーノートスピーチが行われ、決勝論題に関連した内容について、日本の社会状況を踏まえた解説がなされました。閉会式では表彰式が実施され、受賞者が大会の感想を述べました。最後に、代表理事より論題の意図や背景の説明と今後の活動への激励が送られました。



準決勝：ルーマニア 2 VS 聖光



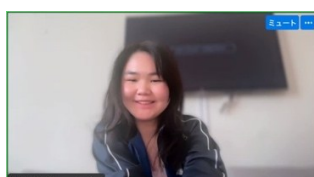
準決勝：モンゴル VS 藤島



キーノートスピーチの様子



決勝：藤島 VS 聖光



個人賞受賞者による大会の感想

第11回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会〔結果〕

チーム賞

優勝： 聖光学院高等学校

準優勝： 福井県立藤島高等学校

準決勝出場チーム： ルーマニア 2、モンゴル



聖光学院高等学校



福井県立藤島高等学校



ルーマニア 2



モンゴル

文化賞

コロンビア・モンゴル・タイ・山形県立東桜学館高等学校

個人賞

ベストディベーター賞

・ 4 回

_____ (Seiko)

・ 3 回

_____ (Fujishima)

_____ (Poland 2)

_____ (Colombia 1)

・ 2 回

_____ (ISAK)

_____ (Funabashi)

_____ (Touohgakkan)

_____ (Philippines2)

_____ (Johnouchi)

_____ (Uganda 2)

_____ (Poland 3)

_____ (Mongolia)

_____ (Romania 2)

_____ (Romania 1)

_____ (Indonesia 2)

_____ (Indonesia 1)

_____ (Philippines 1)

ベスト POI 賞

・ 3 回

_____ (ISAK)
 _____ (Touohgakkan)
 _____ (Seiko)
 _____ (Thailand 2)
 _____ (Poland 1)
 _____ (Romania 1)
 _____ (Colombia 2)

・ 2 回

_____ (Uganda 1)
 _____ (Romania 2)
 _____ (Romania 2)
 _____ (Indonesia 2)
 _____ (Philippines 2)
 _____ (Philippines 2)
 _____ (Philippines 1)
 _____ (Philippines 1)



ベストディベータ賞



ベスト POI 賞



また会いましょう！

第11回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会〔感想〕

(生徒)

- 皆さんとても親切で礼儀正しく、本当に楽しくディベートができました。ただの大会や競技というよりも、もう一つのトレーニングの場であり、自分自身が成長する一歩になったと感じた。(フィリピン)
- カルチャーナイトがとても楽しく、興味深い文化を知ることができました。(日本)
- 論題が興味深く、運営の質も期待以上で、非常に満足できる経験でした。(ルーマニア)
- 素晴らしい大会で、毎年参加したいと思います。(フィリピン)
- とても楽しく、かつ学びの多いイベントでした。ディベートだけでなく、お互いの文化や知識を共有できたことが特に良かったです。(モンゴル)
- ディベーターもジャッジもとても親切で温かく迎えてくれました。他国のディベートのやり方を知ることができたのも良い経験でした。(コロンビア)
- 全体としてとても良い経験でした。機会があればまたぜひ参加したいです。(ウガンダ)
- このようなディベート形式がとても好きです。今後もぜひ参加したいと思います。(ルーマニア)
- 初めて外国の人たちとディベートをしましたが、これまでで一番ワクワクするディベートでした！(日本)
- とてもよく運営されたオンラインイベントで、心から楽しめました。(モロッコ)
- イベントは楽しく、スタッフや他のディベーターも本当に親切でした。(インドネシア)
- チームメイトと一緒に過ごした時間や、さまざまな人と話せたことが楽しかったです。(コロンビア)
- まったく新しい経験で、とても素晴らしい時間でした。(タイ)
- PDA はとても楽しかったです！またぜひ参加したいです。(フィリピン)
- さまざまな国の人とディベートができ、世界に対する関心がより高まりました。(日本)
- とても良い経験で、競争的ではありながらも嫌な雰囲気のない形式だったのが印象的でした。(ルーマニア)
- 海外の生徒と交流しながらディベートできたことが本当に刺激的でした。この2日間は、きっと一生の大切な思い出になると思います。(日本)

(教員／ジャッジ)

- 他国との交流をとて楽しめました。国によって表現の仕方が大きく異なることが分かり、カルチャーナイトでは興味深い発表や映像も見ることができました。(日本)
- 生徒たちはディベートを通じた交流を楽しんでおり、文化交換の機会にもなったと感じています。(タイ)
- 今年は特に論題が多様で挑戦的だったこと、そして国際交流ができたことを楽しみました。(ルーマニア)
- ディベートの運営と交流の質が非常に素晴らしかったです。(インドネシア)
- 教育的観点から見て、非常に意義深い機会でした。(日本)
- すべてのラウンドが素晴らしく、決勝戦でジャッジを務められたことは大きな喜びでした。(モンゴル)
- 「ディベートの楽しさ」を皆で共有する一体感のある雰囲気がとても良かったです。(日本)
- 運営が非常に優れており、プログラムの流れも分かりやすく、安心して楽しめました。(ルーマニア)
- 生徒同士のディベートや交流の様子を見ることができて良かったです。(タイ)